

豚熱の抗体検査法としてのウイルス希釈法中和試験の 確立と野外ワクチン免疫状況の評価

桑田桂輔^{1)†} 子安美紀¹⁾ 木村葉子¹⁾ 伊野波周子¹⁾ 迫田義博^{2),3),4),5)}

- 1) 岐阜県中央家畜保健衛生所 (〒501-1112 岐阜市柳戸1-1)
- 2) 北海道大学大学院獣医学研究院微生物学教室 (〒060-0818 札幌市北区北18条西9丁目)
- 3) 北海道大学 OneHealth リサーチセンター (〒060-0818 札幌市北区北18条西9丁目)
- 4) 北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所 (〒001-0020 札幌市北区北20条西10丁目)
- 5) 北海道大学ワクチン研究開発拠点 (〒001-0021 札幌市北区北21条西11丁目)



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/78/11/78_e153_/article-char/ja

(2025年7月28日受付・2025年9月5日受理・2025年11月21日公開)

要 約

豚熱の抗体検査はELISAと血清希釈法中和試験(SNT)が用いられる。今回、SNTより抗体検出が高感度なウイルス希釈法中和試験(VDNT)を豚熱の抗体検査法として確立し、ELISAやSNT陰性検体中の豚熱ウイルス特異抗体の検出を試みた。また岐阜県内農場のワクチン接種豚の抗体陽性率をELISA、SNT及びVDNTを用い算出した。VDNTで中和指数1.1以上を抗体陽性と設定したところ、SNT陰性検体の52.5% (114/217)がVDNT陽性となった。またELISAとSNTにVDNTの成績を加味しても抗体陽性率の傾向は変わらず、ワクチン接種日齢が早い群の抗体陽性率が低い傾向があった。以上より、ELISAとSNTの従来法で農場の抗体獲得概要は把握できる一方、VDNTでより正確な抗体陽性率を算出できることが明らかとなった。

——キーワード：抗体検査、豚熱、集団免疫、ワクチン、ウイルス希釈法中和試験。

----- 日獣会誌 78, e153～e161 (2025)